

秋季彼岸会が行われました！！

9月23日、秋のお彼岸の中日に際し、唱題行が行われました。

唱題行とは、呼吸を整え、瞑想をし、御題目を「ゆっくり～速く～ゆっくり」とリズムを変えながら唱える修行です。

日本仏教の修行期間であるお彼岸。境内には彼岸花やコスモスが咲いており、お参りの方の目を潤してくれました。圓久寺本堂でご修行した体験は、素晴らしい功德があります。ご先祖様もさぞ喜ばれていることでしょう。

ご参集、誠にご苦労様でございました。

合掌



お寺の御檀家さんと一緒に御題目の修行をして頂きました。



まもなく、御会式をお迎えします。

日蓮宗寺院において、年間の行事の中で一番重要な法要が「御会式」(おえしき)です。日蓮大聖人と出会う法要という意味合いです。

日蓮大聖人は、お題目をお唱えする事が、お釈迦さまが一番喜ばれることであることを教え示してくださいました。

毎年、池上本門寺では10月11日から13日まで盛大な法要が行われています。特に12日夜の万灯・太鼓の行列は、圧巻な感動があります。江戸町衆の日蓮大聖人に対する感謝の思いを、今に伝えている様に感じます。

圓久寺では10月29日に日蓮大聖人への感謝の法要を営みます。どうぞ皆様お誘いあわせの上、お寺にお参りください。

尚、日蓮大聖人へのご報恩のお塔婆をお申し込みになられる方は、10月15日迄に、お寺までご連絡ください。宜しくお願い致します。

御会式のご案内

平成18年10月29日(日)

午後2時より

宗祖御報恩会式法要



池上の御会式の風景
とてもにぎやかなお祭りです。

お寺からのお話

合掌 秋桜ーコスモスー この花の歴史は意外と浅く、明治時代にメキシコから渡ってきたそうです。ほのかなピンクや白の可憐な花に当時の人々はよほど感動したのでしょうか。「秋桜」という和名を付けました。今、圓久寺の境内にひっそりと咲いてくれています。

今夏、ご縁者さん勧めで読んだ本が2冊ありました。

『東京タワー オカンとボクと、時々、オカン』

(リリー・フランキー著 扶桑社)

『佐賀のがばいばあちゃん』(島田洋七著 徳間文庫)

秋の夜長に是非読んでみて如何でしょうか。

私は今まで本を読みながらこんなに笑って泣いたことはありませんでした。読み終わった後に温かい気持ちになったことはありませんでした。この2冊に共通していたことは「家族の絆」です。

家庭崩壊による悲しい事件が続く現代社会、物質的な不自由の無い私達の生活。豊かになったはずなのに虚しい世の中。今を生きる私達は大切なものを忘れてしまっているようです。「家族」とは父親・母親・子供、それぞれの思いが混ざり合って成り立ちます。そしてお互いに尊重し合っていくのが道理であると思います。しかし、大人が一方的に、それも自分の都合のいいように、子供達が何を求めているのか等知ろうともせず、人生の歩き方を押し付けていることが多分にあることは、気をつけなければならないことなのでしょう。

『佐賀のがばいばあちゃん』は著者に言います。「死ぬまで夢を持って！ 叶わなくても、所詮夢だから」と。子供たちにこんな勇気の出る言葉をかけてあげてあげて心を心がけたいものです。

社会への嘆きを口にする前に、そんな社会にしてしまったのは私達「大人」ではありませんか？ 罪を犯してしまった若者達を非難する前に、責任をとらなくてならないのは「自分」にあると自覚しなければならぬのではないのでしょうか？ 皆が「夢」を持てるように、誰もがいつもニコニコ笑って仕事ができる社会にしたいものです。

はじめの一步はまず自分から

吉田俊栄 再拝